

進捗状況の概要（1 ページ以内）

本補助事業は、人間社会学域及び理工学域が主体となり専門教育を対象に「事業の概要」で示した3つの施策に取り組むものであったが、平成29年度からは実施主体を医薬保健学域と共通教育を所掌する国際基幹教育院へと広げ、本学の学士課程教育全体を対象とする事業となった。

学内の実施体制としては、学長を長とするグローバル人材育成推進機構のもと大学教育再生加速プログラム検討委員会（基本方針及び重要事項の審議）、その下に大学教育再生加速プログラム実務委員会（基本方針に沿った取組の企画・立案）、さらにその下部組織として3つの施策それぞれに対応するワーキンググループ（WG）（具体的な取組の計画・実施運営・検証の審議）を設置してきたが、平成29年度より当該委員会・WGの構成員に医薬保健学域および国際基幹教育院から選出された教職員も加わった。また実施部局である人間社会学域、理工学域、医薬保健学域及び国際基幹教育院では、教務・学生系委員会及びFD系委員会が連携しながら取組を実施し、国際基幹教育院高等教育開発・支援部門が取組実施に係る全面的な支援を行うというように全学展開の体制を整えている。

中心となる取組について、施策1（アクティブ・ラーニングの深化・充実）に関しては主にパイロット科目の選定と授業カタログの作成、FDリーダー制度の展開を通してALの導入と深化・促進を進めた。各学類等でALを先導的に導入している4科目程度をパイロット科目に選定し、授業担当教員は授業方法や学修活動に焦点化した実践記録である授業カタログを作成した。授業カタログは学内教員に対して公開した。また各学類等2名のFDリーダーは所属学類等で授業カタログの作成支援も含めたAL推進を担った。FDリーダーに対しては計16回の研修会（FDランチョン・FDワークショップ）を開催した。施策2（学修環境の活用・展開）については、授業時間外学修の充実に向けた環境の整備・改善方策の検討を進めたとともにアクティブ・ラーニング・アドバイザー（ALA）によるAL型授業における学修支援とALAの養成を継続した。施策3（学修過程・成果の可視化）に関しては、前年度試行した学修ポートフォリオ・学修カルテおよびそれらに埋め込まれているALループリックの検証・改善と教員用・学生用記入ガイドの作成、教学IRの継続、バックアップ・ポリシーの策定を進めた。

取組の成果については、平成29年度末で累計150科目の授業カタログの公開やFDリーダーによる各学類等でのAL推進により、学類等の特性やニーズに応じたALの手法・学修活動、学修評価方法の普及と授業改善が進められた。また学修環境改善策の検討とその一部実施やALAによる学修支援の継続（平成29年度は全学で述べ333人）により、グループ学修等のALを効果的に進められた。ALAによる学修支援の教育効果は、受講生アンケート調査等によっても検証された。改良された学修ポートフォリオ・学修カルテは物質化学類で運用を開始し、各学生の学修状況の自己評価を促し、それに合わせた学修支援の充実を図った。これらを通して全学的にAL型授業の普及と質の向上、学修支援環境の整備、学修評価方法の多元化を一体的に進め、学生の学修の質的変容につながられた。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組については、各学域等の主導で進めており、特にFDリーダーやパイロット科目担当者を中心に自発的なFDの実施と教育方法の改善を進めALの深化を推進する体制を整えている。FDリーダーに対する研修も国際基幹教育院スキルアップセンターとの共催で進めており継続できる。またALAによる学修支援の必要性も定着しつつあり既存のTA制度との連携・調整も含めた内部化の議論を進めている。さらに、既存のアドバイス教員制度のもとで学修ポートフォリオ・学修カルテの活用を位置づけるよう協議を進めている。教学IRは大学情報戦略室が担う。

学内外への波及効果については、本補助事業のウェブサイト、学会等での発表・講演、論文、学内外の研修会や刊行物を通して成果の普及に努めている。また、FDリーダーに対する研修は全学にも公開しているが、なかでもFDランチョンは配付資料や研修動画をオンライン上で学内教職員に対して公開し、授業方法や学修活動、学修評価方法等の知見の普及を進めている。さらにALAに関する取組の成果は大学教育学会の課題研究（学生アドバイザーの制度・研修・効果に関する実証的研究）の採択および本学国際基幹教育院高等教育開発・支援部門が教育関係共同利用拠点の認定につながった。